



平成27年度業績ハイライト

当期純利益は、3期以上
連続して100億円超を
確保しているよ。



事業の概況

経営環境

当期のわが国経済は、中国の成長率鈍化や米国の景気回復の遅れなど世界景気に連動する形で不透明感が浮上しましたが、金融緩和策が企業業績を下支えたことなどから、景気は概ね横ばいで推移しました。また、前期に続いて緩やかな賃金増が持続し、原油安も消費にプラスに作用しました。

当行の主要な営業基盤である岐阜・愛知両県におきましては、昨年末までの円安持続を背景に自動車生産の高水準が続き、良好な雇用環境が持続、個人消費も緩やかに改善し、景気全般で持ち直しの動きが継続しました。

こうした状況のなか、当期の業績は次のとおりとなりました。

損益の状況

資金の効率的な運用・調達、役務取引の増強ならびに経営全般にわたる合理化の推進により、収益力の強化に努めました。経常利益は、実質業務純益が減少したことなどから、前期比159億円減少し190億円となりました。また、当期純利益は前期比92億円減少し122億円となりました。

わかりやすく説明するよ!

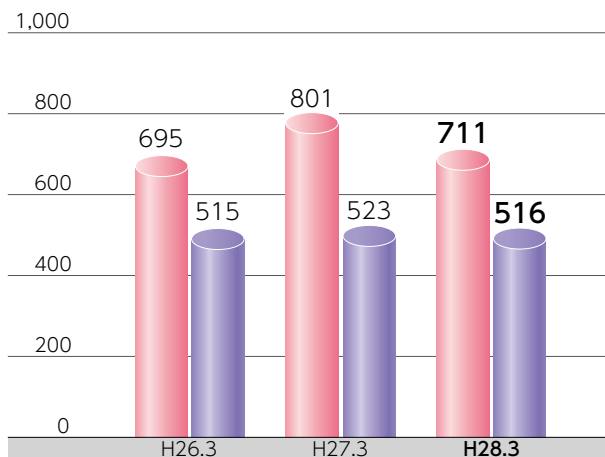
用語説明

業務粗利益	資金利益・役務取引等利益・その他業務利益を合計したものです。
実質業務純益	業務粗利益から経費を控除したものであり、銀行の本来業務から得られる利益をより正確に示すものです。
経常利益	実質業務純益に株式の売却損益・償却および与信関係費用等を加減したものです。
当期純利益	経常利益に特別損益および税金等を加減した最終的な利益です。

業務粗利益・経費

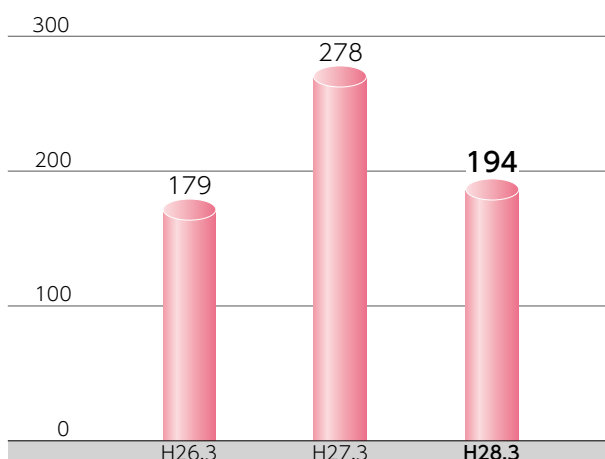
(単位:億円)

■ 業務粗利益 ■ 経費



実質業務純益

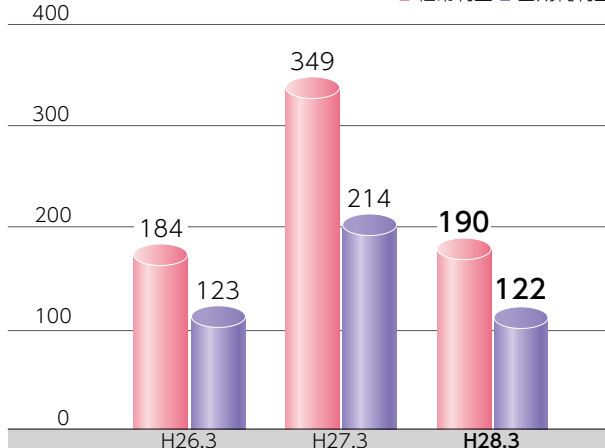
(単位:億円)

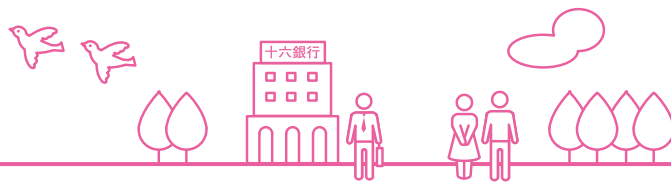


経常利益・当期純利益

(単位:億円)

■ 経常利益 ■ 当期純利益



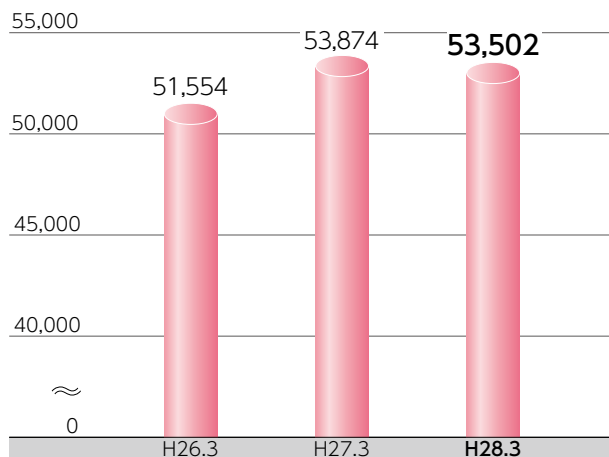


❁ 預金等・貸出金

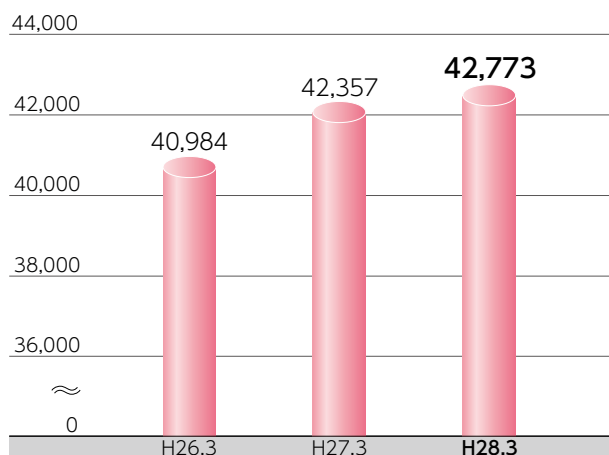
預金等

マイナス金利政策が導入され市場金利が大きく低下するなか、低コストかつ長期安定的な資金の調達に努めるとともに、個人を中心に資産運用ニーズの高まりや多様化に的確にお応えし、投資信託、公共債、年金・終身保険等投資型商品の増強に努めました。この結果、平成28年3月末の預金等残高は、法人向け譲渡性預金の減少を主因に、前期比372億円減少し5兆3,502億円となりました。一方、個人預り資産残高は、前期比416億円増加し4兆2,773億円となりました。

● 預金等残高 (単位：億円)



● 個人預り資産残高 (預金等+投資信託+公共債+年金保険等) (単位：億円)



※預金等には譲渡性預金を含みます。

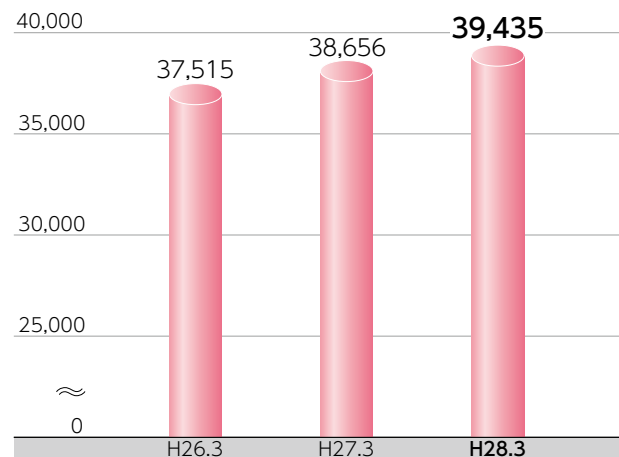
貸出金

地元企業、特に中小企業の資金需要に積極的に応えするとともに、住宅ローンを中心とする個人ローンの取扱いに努めました。この結果、平成28年3月末の貸出金残高は、前期比779億円増加し3兆9,435億円となりました。

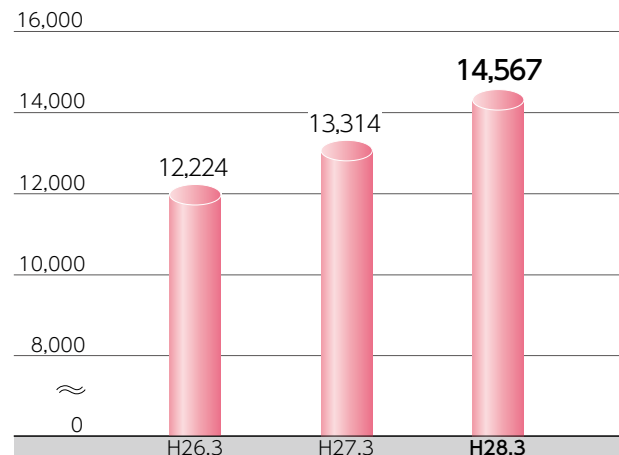
貸出金は
個人ローンを中心に
順調に伸びているよ。



● 貸出金残高 (単位：億円)



● 消費者ローン残高 (単位：億円)





平成27年度業績ハイライト

自己資本比率は、国内基準を大きく上回り、安定的な配当も行っているよ。

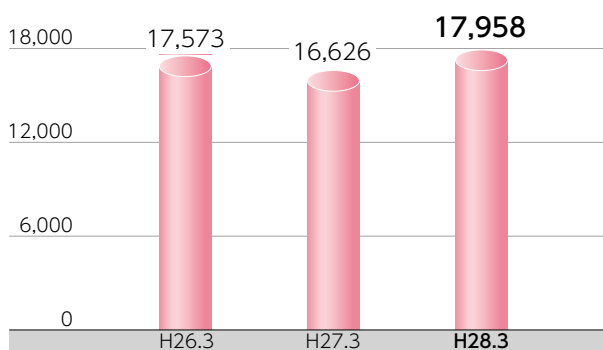


有価証券の状況

国債、地方債等の引受、購入のほか、相場環境を注視しつつ、資金の効率的運用のための債券等の売買を行いました。この結果、平成28年3月末の有価証券残高は、前期比1,332億円増加し1兆7,958億円となりました。

なお、金融商品会計に基づき時価評価を実施しておりますが、評価益と評価損を通算した評価損益は+921億円となりました。

●有価証券残高 (単位:億円)



●有価証券の評価損益 (平成28年3月31日現在) (単位:億円)

	評価損益	評価益	評価損
株 式	564	590	25
債 券	271	284	13
そ の 他	85	115	30
合 計	921	991	69

(注)時価は、期末日における市場価格等に基づいています。

用語の詳しい説明はこちら。

用語説明

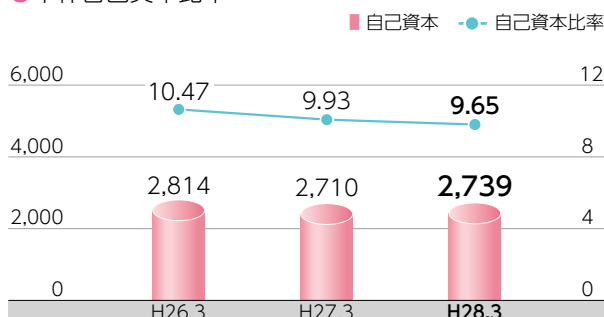
自己資本比率

銀行の健全性を示す最も重要な指標のひとつで、自己資本比率が高いほど健全性は高いといえます。なお、国内基準では4%以上を維持することが求められています。

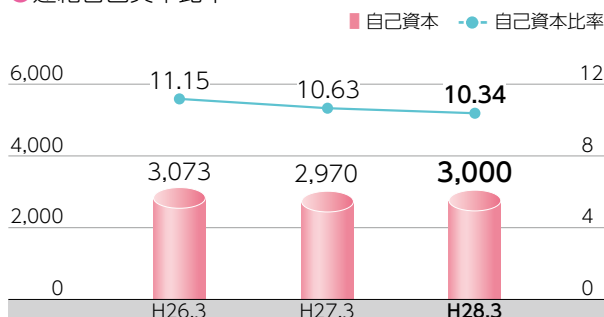
自己資本比率

平成28年3月末の自己資本比率は単体で9.65%、連結で10.34%となり、国内基準の4%を十分上回っています。

●単体自己資本比率 (単位:億円、%)



●連結自己資本比率 (単位:億円、%)



「自己資本比率」は、「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準 (平成18年金融庁告示第19号)」に基づき算出しております。

配当政策

利益配分につきましては、金融取引を巡るリスクが多様化するなかにあって財務体質の一層の向上に留意しつつ、安定的な配当を継続して実施することを基本方針としています。この基本方針に基づき、当期の期末配当金を3円50銭とし、中間配当金3円50銭と合わせ、年間配当金は7円となりました。

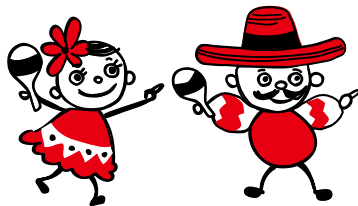
なお、内部留保金につきましては、強固な経営体質の構築および競争力の維持向上をはかるとともに、資本効率の向上を通じて企業価値を高めるため、有効に活用してまいります。

✿ 格付け

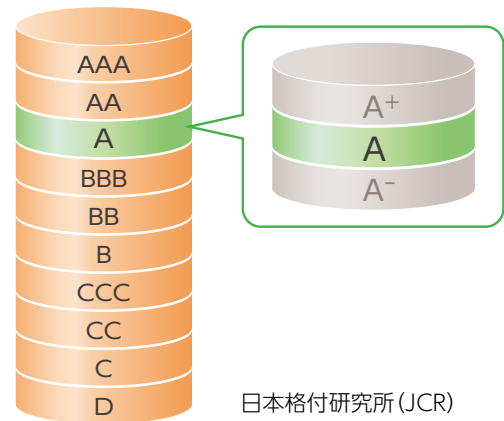
格付けとは、企業が発行する債券等の元利金が約定どおりに支払われるか、あるいは企業そのものの健全度・信用度を簡単な記号で表したもので、第三者である格付機関が公正な立場から格付けを行います。

当行は、日本格付研究所(JCR)から「A」格付けを取得しています。

格付けは安定的を示す「A」を取得してるよ。



● 格付け(平成28年3月31日現在)



✿ 連結の業績

銀行業におきましては、経常収益は、株式等売却益の減少を主因に前期比138億21百万円減少し889億42百万円となりました。経常費用は、営業経費が減少したものの、株式等売却損が増加したことなどから、前期比20億27百万円増加し698億73百万円となりました。この結果、経常利益は前期比158億48百万円減少し190億68百万円となりました。

リース業におきましては、経常収益は前期比6億45百万円増加し211億44百万円、経常費用は前期比5億25百万円増加し196億99百万円となり、経常利益は前期比1億20百万円増加し14億45百万円となりました。

クレジットカード業、信用保証業等のその他におきましては、経常収益は前期比2億86百万円増加し61億37百万円、経常費用は前期比2億41百万円増加し42億61百万円となり、経常利益は前期比44百万円増加し18億75百万円となりました。

この結果、グループ全体での当期の経常収益は前期比129億91百万円減少し1,145億44百万円、経常費用は前期比27億26百万円増加し921億98百万円となり、経常利益は前期比157億17百万円減少し223億46百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比94億28百万円減少し133億71百万円となりました。

✿ 連結キャッシュ・フローの状況

当期における営業活動によるキャッシュ・フローは、売現先勘定の増加などにより922億7百万円の収入(前期は1,717億10百万円の収入)となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の取得などにより1,578億73百万円の支出(前期は1,685億40百万円の収入)となりました。また、

財務活動によるキャッシュ・フローは、劣後特約付借入金の返済などにより60億17百万円の支出(前期は329億47百万円の支出)となりました。この結果、現金及び現金同等物の期末残高は、当期中に716億98百万円減少し3,272億96百万円となりました。

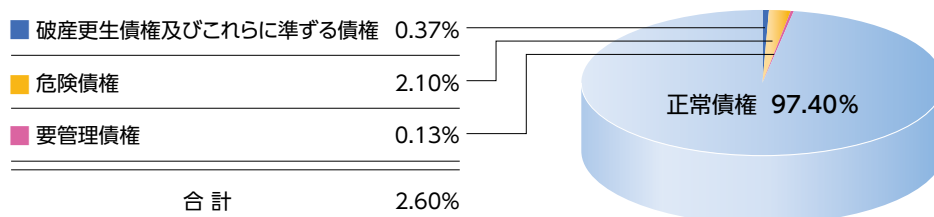


平成27年度業績ハイライト

不良債権比率

不良債権比率は、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」が0.37%、「危険債権」が2.10%、「要管理債権」が0.13%で、合計2.60%となり前期比0.26ポイント改善しました。

●不良債権比率（平成28年3月31日現在）

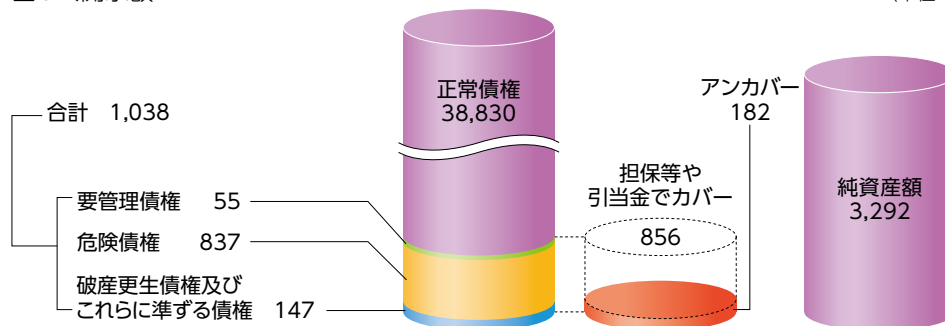


不良債権に対する備え

金融再生法に基づく正常債権以外の債権は1,038億円となっていますが、その82.4% (856億円) が担保等や引当金でカバーされています。残りの17.6% (182億円) については、お取引先の経営状態から、直ちに引当を要するものではありませんが、将来の貸倒に対しても、当行の純資産の部合計額は3,292億円あり、これに与える影響は軽微です。

●金融再生法に基づく開示額（平成28年3月31日現在）

（単位：億円）

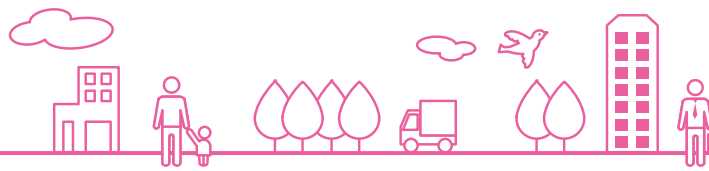


用語説明

わかりやすく
説明するよ!



破産更生債権及びこれらに準ずる債権	破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権
危険債権	債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権
要管理債権	「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」および「危険債権」を除く、3ヵ月以上延滞債権および貸出条件緩和債権
正常債権	債務者の財政状態および経営成績に特に問題がないものとして、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外のものに区分される債権



不良債権の状況

「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律（金融再生法）」に基づく貸出金等の資産の査定結果は、下表のとおりです。

●金融再生法に基づく資産の査定（単体）（平成28年3月31日現在）

（単位：億円）

	破産更生債権及びこれらに準ずる債権	危険債権	要管理債権	正常債権	合 計
貸出金等の残高(A)	147	837	55	38,830	39,869
担保等の保全額(B)	56	504	20	(注) 1. 記載金額は単位未満を四捨五入し、比率は小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。 2. 「金融再生法に基づく資産の査定」には、「貸出金」のほか、「支払承諾見返」、「自行保証付私募債」、「未収利息」、「仮払金」等を含みます。 3. カバー率= (D) ÷ (A) × 100	
引 当 額 (C)	90	183	3		
(B + C) = (D)	147	687	23		
カ バ ー 率	100.0%	82.0%	41.6%		

不良債権の状況（連結）

金融再生法に準拠した貸出金等の資産の査定結果は、下表のとおりです。

●金融再生法に準拠した資産の査定（連結）（平成28年3月31日現在）

（単位：億円）

	破産更生債権及びこれらに準ずる債権	危険債権	要管理債権	正常債権	合 計
貸出金等の残高(A)	163	842	55	39,337	40,397
担保等の保全額(B)	56	487	20	(注) 1. 記載金額は単位未満を四捨五入し、比率は小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。 2. 「金融再生法に準拠した資産の査定（連結）」には、連結子会社の「貸出金」等のほか、「カード債権」、「リース・割賦債権」、「求償債権」等を含みます。 3. カバー率= (D) ÷ (A) × 100	
引 当 額 (C)	107	184	3		
(B + C) = (D)	163	671	23		
カ バ ー 率	100.0%	79.6%	41.6%		

不良債権比率は前期比改善して、健全性は高まっているよ。

